

野菜の需給・価格動向レポート(平成23年2月21日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		1月の価格動向			2月の価格動向		生育及び価格の2月の見通し		
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額			
			中旬	下旬				上旬	
葉 茎 菜	キャベツ	88.05	99	105	88.05	122	・入荷見込量：13,324t (99) ・主産地：愛知 (63)、神奈川 (17)、千葉 (15)	・愛知産は1月の低温・少雨の影響で玉伸びせず小玉傾向、中旬の降雨と気温の上昇で生育の回復が見込まれるが、急激な増加とはならない見込み。神奈川産も1月の低温・少雨の影響で巻きが悪く小玉傾向だが、中旬の降雨と気温の上昇により、前年並の出荷の見込み。 ・今後、生育の回復が見込まれることから、価格は平年よりやや高めながら平年並みに近づく見込み。	
		79.74	100	109	79.74	127	・入荷見込量：3,200t (99) ・主産地：愛知 (37)、大阪 (20)、兵庫 (11)、和歌山 (6)、佐賀 (6)、鹿児島 (6)		
	ねぎ (関東：白ねぎ。 関西：青ねぎ)	229.99	244	238	229.99	264	・入荷見込数量：4,456t (102) ・主産地：千葉 (38)、埼玉 (32)、茨城 (9)、群馬 (8)、輸入 (6)	・生育期間が長いことから、これまでの異常気象の影響が残っている。千葉産は3月上旬までは、前年の出荷量を下回る見込み。埼玉産は出荷量は回復傾向だが、前年の出荷量には届かない見込み。 ・出荷量が少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。	
		450.51	398	403	450.51	479	・入荷見込数量：220t (99) ・主産地：徳島 (27)、大阪 (17)、高知 (15)、奈良 (13)、香川 (8)、群馬 (7)		
	はくさい	64.34	44	47	64.34	55	・入荷見込量：12,351t (100) ・主産地：茨城 (66)、群馬 (19)、兵庫 (10)	・茨城産は中旬の降雪の影響により収穫作業に遅れが発生し、出荷量が一時的に減少しているが、今後は出荷量が回復に向かうものの前年を下回る見込み。群馬産も降雪の影響で前年を下回る見込み。 ・出荷量が減少すると見込まれるので、価格は平年よりやや高めに推移する見込み。	
		76.33	56	58	76.33	67	・入荷見込量：4,000t (90) ・主産地：愛知 (28)、兵庫 (15)、宮崎 (13)、茨城 (12)、熊本 (8)、福岡 (7)		
	ほうれんそう	307.66	494	520	307.66	501	・入荷見込量：1,711t (97) ・主産地：群馬 (27)、茨城 (23)、埼玉 (22)、千葉 (20)	・群馬産は中旬の降雨、気温の上昇で順調な生育・出荷となっている。下旬からは遅れていた生育が回復し、前年を上回る出荷量となる見込み。茨城産は低温・少雨の影響で、出荷量は少なめとなる見込み。 ・群馬産の出荷量の回復が見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。	
		341.25	483	546	341.25	555	・入荷見込量：680t (100) ・主産地：徳島 (67)、福岡 (18)		
	レタス	259.83	221	280	259.83	321	・入荷見込量：6,708t (99) ・主産地：静岡 (33)、香川 (13)、兵庫 (12)、千葉 (8)、熊本 (7)、福岡 (5)	・静岡産は1月の低温・少雨の影響で小玉傾向であり、中旬の降雨、気温の上昇に伴い、生育はやや回復するものの、前年の出荷量には届かない。香川産も中旬の降雨、気温の上昇で遅れていた生育が回復し、前年並みの出荷量となる見込み。 ・出荷量が回復傾向であることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
		238.68	211	274	238.68	312	・入荷見込量：1,100t (102) ・主産地：兵庫 (54)、徳島 (20)、香川 (12)		
	たまねぎ	76.15	153	149	76.15	148	・入荷見込量：7,246t (90) ・主産地：北海道 (77)、輸入 (17)	・北海道産は小玉傾向かつ成品率が悪いことから、出荷量は平年を下回る見込み。 ・北海道産が不作であることから、価格は平年より高めに推移する見込み。 (※トピック欄参照)	
		76.15	153	154	76.15	145	・入荷見込量：3,100t (90) ・主産地：北海道 (64)、兵庫 (22)、大阪 (6)		
果 菜	きゅうり	370.98	330	336	370.98	323	・入荷見込量：4,599t (100) ・主産地：宮崎 (22)、高知 (16)、千葉 (16)、群馬 (11)、茨城 (9)、埼玉 (5)	・宮崎産は出荷の谷間になることと日照不足の影響から2月下旬から3月にかけては出荷量はやや少なめの見込み。高知産は生育・出荷ともに順調で、前年並みの出荷量となる見込み。 ・宮崎産が少なめと見込まれるものの、他産地の出荷は順調であり、平年よりやや低めに推移する見込み。	
		350.33	312	329	350.33	315	・入荷見込量：950t (100) ・主産地：宮崎 (46)、徳島 (24)、高知 (19)、愛媛 (8)		
	トマト	332.6	373	341	332.6	355	・入荷見込量：4,667t (99) ・主産地：熊本 (37)、愛知 (12)、栃木 (12)、宮崎 (6)、福岡 (6)、群馬 (4)、静岡 (4)、千葉 (3)	・熊本産は2月上旬までの低温・曇天の影響で、小玉傾向の出荷となり、前年の出荷量には届かない見込み。愛知産は病害虫の被害もなく順調な出荷となり、前年を上回る出荷量となり、今後も順調な出荷の見込み。 ・主産地の熊本産の出荷量が減ると見込まれることから、平年よりやや高めに推移する見込み。	
		311.06	348	329	311.06	335	・入荷見込量：800t (100) ・主産地：熊本 (48)、福岡 (20)、愛知 (12)		
	なす	389.03	366	373	389.03	373	・入荷見込量：1,815 (99) ・主産地：高知 (58)、福岡 (17)、佐賀 (7)	・高知産は生育・出荷ともに順調で前年並みの出荷量の見込み。福岡産は1月の低温と日照不足の影響から、少なめの出荷量となっており、下旬までは前年を下回った出荷量で、3月は前年並みの出荷量となる見込み。 ・価格は、高知産が順調な出荷が見込まれることから、平年並みで推移する見込み。	
		397.74	359	367	397.74	369	・入荷見込量：340t (101) ・主産地：高知 (26) 福岡 (24)、熊本 (24)、岡山 (16)		
	ピーマン	501.13	532	630	501.13	669	・入荷見込量：1,129t (100) ・主産地：宮崎 (40)、茨城 (23)、高知 (21)、鹿児島 (14)	・宮崎産は生育・出荷ともに概ね順調で前年並みの出荷量の見込み。茨城産は1月の低温・少雨の影響でやや少なめの出荷量の見込み。 ・出荷量が少なめと見込まれることから、価格はやや高めで推移する見込み。	
		467.19	499	591	467.19	657	・入荷見込量：240t (86) ・主産地：宮崎 (68)、高知 (21)、鹿児島 (8)		
	根 菜	だいこん	83.19	51	64	83.19	80	・入荷見込量：11,617t (100) ・主産地：神奈川 (63)、千葉 (28)、	・神奈川産は低温・少雨の影響で肥大不足で小ぶり傾向、中旬の降雨で生育はやや回復し、今後は増加傾向となり、3月は前年並みの出荷の見込み。千葉産は前年並みの出荷量の見込み。 ・出荷量の回復が見込まれるので、価格は今は高めで推移しているものの、今後は平年並みに近づく見込み。
			84.7	51	65	84.7	81	・入荷見込量：3,500t (100) ・主産地：長崎 (29)、徳島 (27)、鹿児島 (14)、和歌山 (13)、福岡 (6)	
にんじん		96.24	130	133	96.24	151	・入荷見込量：6,451t (93) ・主産地：千葉 (78)、埼玉 (12)、茨城 (6)、輸入 (0.2)	・千葉産は1月の低温・少雨の影響で、前年を下回る出荷量となっている。3月末まではこの水準で出荷が続くが、切り上がりは平年より早い見込み。埼玉産の出荷量も少ない見込み。 ・出荷量が少なくと見込まれることから、価格は平年よりやや高めで推移する見込み。	
		104.73	116	118	104.73	130	・入荷見込量：2,000t (95) ・主産地：鹿児島 (42)、長崎 (27)、愛知 (18)		

種類		1月の価格動向			2月の価格動向		生育及び価格の2月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関 東・近畿ブロック 旬別平均販売価 額		
			中旬	下旬		上旬		
い   も	さといも	217.95	304	285	217.95	279	・埼玉産は夏の少雨の影響で小玉傾向、前年の出荷量を約2割下回る見込み。千葉産も夏の少雨、10月の降雨の影響で、生育不良がみられ、前年の出荷量を下回る見込み。 ・価格はやや高めで推移する見込み。	
		219.65	291	263	219.65	345		
	ばれいしょ	88.17	143	142	88.17	147		・北海道産は夏の高温の影響で小玉傾向、空洞果多く、玉つきも悪く、出荷量は少なかった前年を下回る見込み。鹿児島産は低温・降雨の影響で作柄が悪く、前年を下回る見込み。 ・価格は、引き続き平年より高めで推移する見込み。
		88.17	140	137	88.17	137		
1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。 2) 旬別平均販売価額の背景なしは保証基準額を上回るもの。背景ありは下回るもの(消費税は除く)。 3) 単位は円／kg、上段は関東、下段は近畿ブロック								
1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといも(近畿)は前年実績。 2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。 3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。								

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、12月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、5,177gで対前年比99%、購入金額は、1,887円で同108%となり、購入量はほぼ前年並みに回復し、購入金額は引き続き対前年を上回っている。

また、小売物価統計によると、1月のキャベツの小売価格は183円で過去5年平均比97%、レタスは505円で同82%となり、キャベツ、レタスともに前年を下回っている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

(1人当たりの購入量、金額)

年	過去5か年平均		平成21年		平成22年			
月	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	前年比	金額 (円)	前年比
1月	4,130	1,521	4,277	1,548	4,240	99	1,551	100
2月	4,325	1,548	4,536	1,529	4,461	98	1,574	103
3月	4,675	1,690	4,799	1,685	4,970	104	1,768	105
4月	4,758	1,783	4,783	1,805	4,518	94	1,804	100
5月	5,127	1,884	5,216	1,918	4,925	94	1,965	102
6月	5,042	1,856	5,180	1,888	5,026	97	1,907	101
7月	4,471	1,668	4,645	1,648	4,264	92	1,697	103
8月	4,330	1,703	4,321	1,752	4,241	98	1,733	99
9月	4,913	1,783	5,141	1,828	4,605	90	1,818	99
10月	5,382	1,807	5,691	1,767	4,994	88	1,959	111
11月	5,024	1,569	5,307	1,560	4,678	88	1,774	114
12月	5,185	1,797	5,213	1,751	5,177	99	1,887	108

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

(単位:円/kg)

	キャベツ		5カ年比 (%)	レタス		5カ年比 (%)
	過去5カ年平均	平成23年		過去5カ年平均	平成23年	
H22.7月	149	164	110	315	317	101
8月	159	166	104	449	536	119
9月	153	155	101	472	515	109
10月	146	192	132	419	668	159
11月	129	265	205	339	520	153
12月	146	185	127	456	393	86
H23.1月	189	183	97	618	505	82
2月	173		0	496		0
3月	181		0	455		0
4月	250		0	464		0
5月	185		0	399		0
6月	159		0	360		0

注1:過去5カ年はH22.7～はH17～H21、H23.1～はH18～H22の平均

注2:1月の値は、1月中旬の速報値

資料:総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

平成23年1月の輸入量を植物防疫統計で見ると、たまねぎは前年比173%（うち中国同145%、米国同218%）の4万1千トン、にんじんは同312%（うち中国286%）の3千トン、ねぎは同109%（うち中国同109%）の4千トンとなり、引き続き前年より増加している。

野菜等の輸入数量の推移について

(単位：トン、%)

区分	平成20年		平成21年		平成22年1月～12月		平成22年12月
		前年比		前年比		前年同期比	前年同期比
生鮮野菜	602,733	84	615,271	102	820,687	133	167
加工野菜	1,660,663	93	1,569,627	95	1,677,840	107	106
野菜輸入量合計	2,263,395	90	2,184,898	97	2,498,527	114	124
うち中国産野菜合計	1,150,352	81	1,098,415	95	1,284,449	117	128
中国産シェア	51		50		51		

資料：ペジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

(単位：トン、%)

品目	輸入先	(A)2010.1	(B)2011.1	(B)/(A)
たまねぎ	合計	23,776	41,247	173
	中国	14,085	20,478	145
	米国	9,405	20,532	218
にんじん	合計	1,087	3,389	312
	中国	1,036	2,958	286
	オーストラリア	24	250	1042
ねぎ	合計	3,452	3,746	109
	中国	3,450	3,744	109

資料：農林水産省「植物防疫統計」（2011.1）は、1月末までの速報値である。

4 トピック

今後のたまねぎの入荷量の予測について  北海道産の不作のため、たまねぎの輸入が増えているが、主産地への聴き取り等をもとに今後のたまねぎの供給について予測した。 北海道産が平年より早めの切り上がりを迎えることから、3月までは輸入は現状の水準で推移するものとみられる。 4月以降は、主産地となる佐賀産が作付面積も増え順調な出荷量が見込まれること、また兵庫産も5月以降は、平年を上回る出荷量が見込まれることから、輸入量は4月以降徐々に減少していくものとみられる。	東京都中央卸売市場におけるたまねぎの入荷量の予測について  たまねぎの入荷量の推移(2011年推計)  たまねぎの入荷量の推移(平年)
	<div>資料:ペジ探 東京都中央卸売市場9市場。平年値は2005～2009年 注:2011年推計グラフについて、 ①12、1月は実績値。 ②輸入量は、平年の入荷量総計から国内産計(予測値)を除いたもの</div>